

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）  
2003年9月28日発行 SSKA 増刊通巻第4649号

SSKA

# ああるびい

RP三重支部会報第7号

今年度の本部の総会で定款が改正されました。

いままでは会員が参加しての総会でしたが、来年度からは、各地持ち回りで代議員会が総会のような形式となりました。東京一局ではなくなり、どうやら、他の団体のようになってきました。

さて、今年の三重支部の総会は関係者を含めて78名の参加があり、大盛況に終わることができました。

その中で、大庭先生に講演をしていただいた、内容を大阪の山本さんにテープおこしをしていただきました

それを今回の会報に掲載させていただきます。

## 第8回R P 三重総会議案書

### 1. 平成14年度事業報告

下記の行事を主催または共催し参加しました。

日時	用件	場所	参加人数 会員	参加人数 付き添い等
4月29日	三難連役員会	男女共同参画センター	支部長	
5月9日	役員会	鈴鹿市	役員	
5月28日	激励金の授与式	津市	支部長	
6月16日	三難連の役員会	男女共同参画センター	支部長	
6月23日	総会と医療相談会	松阪市福祉会館	72名	
7月28日	三難連総会	男女共同参画センター	6名	2名
8月2,3,4日	世界大会	幕張	24名	16名
10月13日	東海地区リーダー研修会	四日市市	21名	
10月31日	鈴鹿保健所の交流会	鈴鹿保健所	15名	
11月4日	秋の交流会	南勢町自然村	38名	
11月4日	役員会	南勢町自然村	役員	
11月23日	三難連役員会	男女共同参画センター	1名	
1月26日	新春交流会	津市	34名	
2月23日	難病の集い	県身障センター	5名	
3月6日	役員会	盲人センター	6名	
3月8日	定款改正員会	東京	支部長	
3月16日	支部長会	東京	支部長	

2. 平成14年度決算報告

支出の部	金額	収入の部	金額
総合計	577,241	総合計	577,241
総会			
講師謝礼	73,150	寄付金	20,000
印刷費	2,100	中日新聞社会事業団	157,496
通信費	4,228	三難連より補助金	64,000
会場費	23,934	本部より	45,890
ボランティア交通費	11,726	総会	
弁当代	48,800	弁当代	41,600
三難連の会費	20,000	参加費	22,400
津市への行動費	800	人権講座の謝礼	4,855
三難連総会行動費	16,430	QOL対策費(本部より)	50,000
世界大会へ	40,844	新春交流会参加費	136,000
東海地区リーダー研修会		会員よりの寄付	35,000
講師謝礼	40,000		
会場費	3,990		
ボランティア交通費	7,290		
役員行動費	7,820		
会報作成費	3,874		
鈴鹿保健所での 交流会行動費	5,600		
秋の交流会での バス借り上げ料	36,000		
新春交流会			
印刷費	1,937		
通信費	6,760		
会場費	18,900		
ボランティア交通費	10,554		
食事代	137,162		
難病の集いの行動費	9,340		
役員会の行動費	3,600		
次年度繰越金	42,402		

### 3. 平成15年度事業計画（案）

日付	行事	場所
4月29日	三難連の役員会	男女共同参画センター
5月11日	本部総会	東京
6月29日	支部総会と医療相談会	松阪市
7月21日	三難連総会	津市
7月	役員会	
9月	支部長会	東京
10月	支部会報の発行	
11月3日	秋の会員交流会	小俣町
11月27日	鈴鹿保健所 難病者の生活相談会	
11月	役員会	
11月29. 30日	東海地区リーダー研修会	静岡
1月25日	新春会員交流会	南勢地区を予定
2月22日	難病の集い	
2月	役員会	
3月	JRPS本部にて支部長会	
3月	役員会	

### 4. 平成15年度予算（案）

収入の部	金額	支出の部	金額
総額	<b>396,402</b>	総額	<b>396,402</b>
JRPS本部より交付金	<b>50,000</b>	総会・医療相談会関係費	<b>160,000</b>
三重県難病団体連絡協議会より交付金	<b>64,000</b>	交流会事業費	<b>150,000</b>
総会医療相談会費	<b>90,000</b>	総務経費	<b>44,000</b>
交流会会費	<b>150,000</b>	予備費	<b>42,402</b>
前年度繰越金	<b>42,402</b>		

### 5. 役員選任と代議員の選出について

\*役員は以下の方が選任されました。

会長 河原 洋紀  
 副会長 小川 正次  
 会計 岸田 一則  
 幹事 内田 順朗  
 幹事 小川 裕子  
 幹事 木村 靖子  
 幹事 刀根 美幸  
 監事 佐藤 好幸

代議員（予定）

河原 洋紀  
 佐藤 好幸

### 6. その他

## [講演要旨]

平成15年6月29日  
(JRPS 三重支部総会で)

### 網膜色素変性症と遺伝

鹿児島大学名誉教授  
大庭紀雄 先生

#### (略歴)

昭和36年	東京大学医学部卒業
昭和53年	鹿児島大学医学部眼科教授
平成14年	同大学退官
現在	愛知医科大学医学部眼科教授

■網膜色素変性症患者で一番多いのは、親にも兄弟にも子供にも患者はだれもいない、患者は自分だけであるという人（孤発例）である。こういう人はこれからもっと増えると思われる。

#### ■遺伝形式

##### (1) 常染色体劣性遺伝

患者の8割がこの遺伝形式。父母がそれぞれ一本ずつ劣性遺伝病を持っている場合（それぞれが保因者）、その子供は父母から1本ずつ染色体をもらうので、4つの組み合わせができる。劣性遺伝というのは2本とも変異遺伝子を持っている場合に発症し、1本だけ持っている場合は病気は起こらない。この場合、4人に1人の割り（25%）で発症し、4人のうち2人（50%）は発症しないけれども変異遺伝子を受け継ぐ（保因者）

になる。残りの4人のうち、1人（25%）は正常な遺伝子を受け継ぐ。

変異遺伝子を隠れて持っているかどうかは理屈としては調べることができるが、まだそこまで研究が進んでいないので、今はまだむつかしい。しかし、いろいろな調査からすると、50人に1人ぐらいは隠れて変異遺伝子を持っているのではないかとされている。だからそれほどまれではない。50人に1人の人と50人に1人の人がたまたま結婚すると、25%の確率で子供が発症する。

発症している人と結婚する場合子供はどうなるのかとよく聞かれる。調べることはできないが、この人は50人に1人の確率で変異遺伝子を持っている可能性があるので、100分の1の確率で病気が出る。

全く血縁関係がなくて、患者でない人同士が結婚したとしても、50分の1×50分の1=2,500分の1（約3,000分の1）の確率で病気が出る組み合わせができる。ただ、50人に1人というのは社会一般の数字で、患者一族では隠れて持っている人は50分の1よりももっとはるかに多い。したがって、近親結婚の場合は病気が出る確率が高くなる。

保因者（キャリア）はヘテロ\*といい、病気になる人はホモ\*という。遺伝子の変異がヘテロの形で何百世代も続いていく。先祖から受け継いでいく。近親婚が減少して、網膜色素変性症も含めて劣性遺伝の患者が減ってきた。どのくらい減ってきたかというきちんとした調査はないが、私の想像では30%ぐら

い減ったのではないかと思う。一方、人類は遺伝子を永々として受け継いで下へ伝えていくので、ヘテロの、隠れて変異遺伝子を持っている患者は増えているに違いない。

(注——広辞苑より)

ヘテロ【hetero ギリシア】

〔生〕(「異なる」の意)

- (1) 対応するある遺伝子に違いがある配偶子同士が接合して生じた個体の遺伝子構成。
- (2) ヘテロ接合体の略。・ホモ。

ホモ【homo ギリシア】

〔生〕(同一の意)

- (1) 複相の個体で、ある遺伝子が二つとも同じ場合、その遺伝子についてホモという。すべての遺伝子について同じ場合を純系という。
- (2) ホモ接合体の略。・ヘテロ。

## (2) 常染色体優性遺伝

患者の15%ぐらいの構成比。ひよっとすると20%ぐらいかもしれない。この場合は、親から子、子から孫へと、これこそ遺伝病だと思われるような遺伝の仕方をする網膜色素変性症である。片方だけ変異があると病気が出る。優性といって病気にならせる遺伝子の力が強い。変異遺伝子が1本あれば病気になるので、親の片方が正常であっても子供は4人のうち2人

(50%)に病気が出る可能性がある。この場合は非常にリスクが高いが、普通、症状は非常に軽い。症状がゆっくり進行したり、進行しても大したことにならない。一般的には、劣性遺伝病の方が比較的若い時から、極端な場合は小学生時代から症状が出てくる。優性遺伝病の場合は、40歳、50歳を過ぎてから症状がはっきりしてくる。

### (3) 伴性劣性遺伝 (X染色体劣性遺伝、X染色体連鎖遺伝)

ヨーロッパに比較的多い遺伝形式で、日本では5%ぐらいと思われる。色盲と同じように、患者はみな男性で、女性は保因者になる。

#### ■孤発例 (散発例)

1人だけ家族に孤立して病気が出る場合。

#### ■現在の研究

病気の原因についての研究は、遺伝子の研究ができるようになったので、ここ数年の間に猛烈な勢いで進歩した。いずれは根本的な原因がわかるようになるであろう。だが、遺伝子治療の問題はまだまだむつかしい。しかし、原因がわかってきたので、それを参考にして、その周りを埋めるような対症療法、薬が中心になるが、例えば細胞をできるだけ長生きさせてやるとか、神経を保護してやるといった薬の開発が非常に活発に行われている。



## ■ Q & A

Q 1 : 常染色体劣性遺伝の保因者同士の男女がめぐり合う確率は50分の1 × 50分の1である。ところで、網膜色素変性症の関係遺伝子は既に123個見つかった(米のヘッケンリブリーの発表 2002/6 末現在)。まだまだ関係遺伝子が発見されていくと思うので、同じ保因者といっても、同じ関係遺伝子同士がめぐり合う機会というのは、確率としてはもっともっと低くなるのではないかと思われる。ところが、実際には3,000~4,000人に1人が発症している。この差はどのように考えたらよいのか？

A 1 : 保因者は全部をひっくりかえして50人に1人という数字はもう少し細かく修正しなければならないだろう。もうひとつは、100以上の関係遺伝子はすべて劣性ではなく、優性の場合もあり、その場合ホモでなくて病気になるので、もう少し確率が高くなる。正確な疫学調査というのは、網膜色素変性症と似て非なる病気も多くてなかなかむづかしい。

Q 2 : 劣性遺伝の割合は80%とおっしゃったので、孤発例は劣性遺伝とお考えのようですが、孤発例で次の世代に発症したという話を聞いたことがない。もちろんキャリアになることは間違いないけれど。実際に発症したケースをご存じでしょうか？

A 2 : 孤発例の人からその子供に遺伝する場合は結果的に孤発例ではなくなる。そういうケースはもちろん経験している。近親婚の場合が多い。親戚を遺伝子レベルで調べると、ヘテロで変異遺伝子を隠れて持っている。

Q 3 : 少子化がどんどん進んでいくとキャリアが増えていき、キャリアが増えていくと発症者が増えていくと考えられるのか？

A 3 : キャリアが一般人口で増えてくると孤発例が増えてくる。一方、近親婚が減ってきているので、ある一定のレベルで患者数は平衡になってくる。

Q 4 : 遺伝子の異常ならば生まれた時から悪いはずなのに、年をとってから病気が進行してくるとするのは、何かの因子が関与しているのではないか？

A 4 : 病気になるかならないかというのは、遺伝子変異があつて、しかもホモになると病気を起こす危険がある。ただし、実際に症状として現れてくる時に、ひとつの遺伝子だけではなくて、それに関係する網膜の働きがからまって出てくる。どんな時になるのかということとはよくわかっていないが、その時に働くのが他の遺伝子の働きであり、環境の働き（例えば、食事、光）であると思われる。

Q 5 : 子供が5歳で発症し、現在11歳ですが、薬を早く飲んだ方がよいのでしょうか？

A 5 : 網膜の栄養剤とかアダプチノールといった錠剤があるが、その効果を確認するのがなかなかむづかしい。私の知る限りでは副作用、有害作用はないので、いろんな意味で飲んだ方がよいのではないかと思う。子供さんの病気に対する自覚や心理的な影響も考慮して、今日・明日という問題ではないのでゆっくり考えたらよいのではないか。

今が青春まっただ中

度会郡南勢町 榊原美佐子

これは孫が私の私生活を見て作文を作ってくれました。  
これを紹介させて頂き、私の心境を追伸させて頂きます。

平成15年1月1日発行 青少年育成町民会議

平成14年度23回少年の主張大会発表

みんな平等 同じ人間

南勢町立五カ所中学二年 榊原はるか

『私たちの周りには、色々な障害を持った人達がいる。

私のおばあちゃんも目が見えない。

すごく不便そうだけれど、おばあちゃんは、私の倍も時間をかけて、部屋掃除や食事の用意をしている。

だから居間を掃除する時に、私達のカバンや、おもちゃ、本などを床に散らかしてあると、「ばあちゃん怖くて掃除ができません。」「あんたらが普通に見えてよければ、わからない。」とよく言われる。

また言われて、もういちいちうるさいなと、言われるたびに私はそう思っていた。だけど目の見えている、私たちがしなくてはいけない事までも一生懸命にしてくれている姿を見て協力しなくてはいけないと思うようになった。

家族で初詣に行った時には、私やひいおばあちゃんが、腕を組んで歩く。階段段差があると「段がある。」「次はちょっと高い。」「次は広い。」と言ってあげる。そうすると、すごく登りおりするのがしやすそうだ。

私はこの時、私にとっては簡単なことだけど、目の見えない人には助かっているんだな！と思った。

食事の時にも、ここに何があって、ここにこれがあると言っ

てあげることで、教えてあげる事が出来る。障害を持った人と関わるという事は、難しい事と思っていた。けれど、実際は簡単な事だった。

障害を持っている人は、周囲の人の助けが必要としているけれど、障害を持っている人に対して何もかも助けてしまうことは、いけないことだ。

よく、目が見えなくて「かわいそう。」と言う人がいる、だけど今私のおばあちゃんは、声の出るパソコンで、同じような障害を持った目の見えないお友達と、メールをし、毎日楽しそうだ。

それに最近携帯電話を持つようになった。特に最近はメールを始めるようになって毎日毎日生き生きしているように思うだから私は、ふだんおばあちゃんの事を障害者という意識で見なくなっている。

おばあちゃんは私にとって、大切な存在だ。

おばあちゃんがいて笑顔で暮らせる。どんな事にも挑戦する気持ちや、なにごとにも、一生懸命に取りこむ気持ちの大切さを教えられた。こういう所は、手伝ってあげればよいと勉強にもなった。

私がやりたくないような汚い部屋の掃除も、長い時間をかけてやる。漬け物や、おみそを作るし、私に出来ない事もやっている。そんなおばあちゃんを尊敬し誇りに思っている。どんな時にも頑張って笑顔で、最後まで取り組んでいる。

おばあちゃんに出来ないことは、私助ければよい。助け合う気持ちが必要だ。不便そう。大変つらそう。確かにそうだ。けれど、目の見えない、耳が聞こえない、手足が動かないとゆうだけで、みんな平等だ。私たちと同じ人間だと私は思う。

これからも私は、障害を持っている人のことを、障害者と言

う目で見ないで、同じ一人の人間として見て行こうと思う。  
視覚障害者と感じさせないおばあちゃんを、応援し支えていき  
たい。

私はおばあちゃんが大好きだ。』

はるか、有り難う。

日頃、口うるさく言って、頼むことの多いのに、明るく素直  
に聞き入れて優しく思いやりのある孫たちに、囲まれて私は幸  
せです。

これからも、周囲の人達にも目を向けて優しい心、思いやり  
を持ち続けることを願っています。

RP三重と志摩視覚障害者福祉会に入会させて頂いてから、  
早くも2年が過ぎ、楽しい雰囲気の中で、私の人生も変わりました。

目が見えていたら、知り合う事がなかった方々と、目が見え  
なくなって、多勢の方々と出会えて私は幸せに思っています。  
ボランティアさんの、お世話になり、手で触れて確かめ説明を  
聞きながらいろんな所へ、歩きに楽しく話しながら一日を過ご  
させてもらいます。

一期一会の出会いを大切にしたいと思います。

また、1年前に、パソコンも、なにもわからない私を、手厚  
く教えて頂きお陰で、間違いながらもメールを書けるようにな  
り、沢山の情報を聞き、楽しいメールが届くのを、楽しみにし  
ています。一人で、読む事が出来ない、書く事も出来ない自分  
達こそ、パソコンが必要と言われ、覚える事が出来、今は生き  
がいにしています。

私は、今が青春まっただ中です。

二度とない人生を大切に、これからも頑張っていきたいと思  
います。

## 変身した私の人生

度会郡大宮町 森田ミヨ子

人生には何が幸福か不幸かわからないです。

私は五年前に胃ガンになって、その時一度生きることをあきらめました。

でも、病気のおかげで、引きこもっていた私に、さよならする事が出来ました。

人の前に出たくない、人に見られたくない、でも入院したことで、ありのままに生活する事が、どんなにか楽で暮らしやすいかという事に気が付き、生まれ変わったような気がします。

明るく生きようと思っていた時に、偶然運命的にJRPSに巡り会う事が出来、私の素晴らしい第二の人生が始まりました。

以前の私には、とても考えられない事が、どんどん叶えられ、勧め頂いて、歩行訓練を受けることが出来ました。知っている道だと、一人歩きも出来るようになり本当に良かったと思っています。

パソコンを勧めて頂いた時、今の時代に、自動販売機でジュースさえ買った事のない機械音痴の私に出来るはずがない。それに必要がないと思っていました。そう思いながらも、もしパソコンを使えるようになったら私はすごいパワーアップ出来るだろうなあと、いう思いがありました。

新年交流会の、山下さんのトークと腹話術や、榊原さんのお孫さんの作文を聞いて、とても感動しました。

その時、小川さんにパソコン体験を誘って頂き、一度見せて頂こうとおじゃましました。

やってみたいと思っていたのですが、「私では無理だろうなあ。」主人が「やりたかったらやってもいいよ。」

「お父さん有り難う。いつも私に何歩もゆずってくれて。」

後の事も考えず早々パソコンを、お願いしました。

もの覚えが悪く、何度聞いてもなかなか憶えられない優しい小川睦夫先生に、気長に教えて頂きました。

始めて送ってもらったメールが、とても優しく面白くてすっかりメールの虜になりました。

あきらめていた、文章を書く事、読む事が出来、もうすぐ六十才になる今、パソコンに出会うことが出来て、本当に幸せです。

田舎で心も視野も狭く生きて来た私が、メールの窓から沢山の方と出会う事が出来、いろんな事を教えて頂き視覚障害も、悪くないとさへ思えるのです。

沢山の優しい人達と、出かける事が出来なくなっても「不自由でも不幸ではない。」

私は老後も楽しみたいです。



## 62歳のデビュー

木村靖子

私は30歳頃からどこかの合唱団に所属して歌うことは続けている。

見えていた頃は伊勢市の「伊勢混声合唱団」と指揮者として明和町の女声コーラス「明和 エコー」である。これらの合唱団はふたつとも今は存在しないけど。

見えなくなっからは松阪市の「やちまた混声合唱団」と明和町の「コーラス斎王」である。

だから、舞台上でコーラスをするのにはなれていて上がるということとはあまり感じない。

でも、独唱となれば別である。コーラスの中で1フレーズを歌わせて貰ったりカラオケで一曲を歌ったことが有るだけである。

「ピアノ伴奏で数曲うたってみたい」というのは長年の夢でもあったが、「息が続かないだろう」と諦めていた。

60歳の夏、同窓会があって、友人の松岡さんがピアノより歌に励もうと歌の先生に発声を見てもらいに行っていると近況を知らせてくれた。

私はすぐその友人に頼み込んで一緒に歌の先生の所へ連れて行って貰った。そして、月一回のレッスンを受けることになった。

ちょうどその頃、ダンスを習いだしたと言う友人のメールを見て私もダンスを習うのも長年の夢だったと思い「習いたい」切実に思った。

ありがたいことに明和町の友人肥留間さんが一緒に習いに行く道を付けてくれた。また、パティ―と毎日歩いて約5年。体調も良かった。

そんなおり、三重補助犬普及協会がNPO法人を取得してその認定記念集会を開くことになりそのイベントの一つとして私に歌わないかという話をいただいた。

そして、7月13日の舞台となった。友人の松岡さんとは難度もピアノあわせをして頂いていたし、若い頃から歌ってきた私の好きな曲ばかりだったので不安もなく「すてき」と言って頂くドレスで身を飾りパーティー共々張り切って舞台に出た。

日本歌曲が2曲。シューベルトの歌曲の日本語訳のを2曲。そしてイタリア語の歌曲とアリアを歌った。2曲歌うたびにインタビュー形式でパーティーの話語ったので会場との雰囲気もよく、のびのび歌えた。

一曲目は二人とも堅くなっていたが二曲目からは思っていたよりうまくいったと思う。

このようにして62歳同志のコンビによる演奏はつつがなく無事終了した。

聞いて頂いた皆さんに若いと言って頂き良い気分になっていた。ところが、やはり年である。演奏会が済んでからピアノ伴奏の友人も一週間はピアノを見るのもいやだといっていたが、私も声を出す気にもならずごろごろしていた。はやく、体調を取り戻し次回に向かわなければと思っているこのごろである。

平成 15 年 10 月 1 日

支部会員各位

JRPS 三重支部長 河原洋紀

### 秋の会員交流会の開催について

例年ならば秋の実りを満喫する頃となりましたが、この夏の天候不順でお米も豊作とはほど遠いようです。おいしい新米はすでに食卓に上ったでしょうか。

会員の皆様そしてご家族の皆様にはお変わりなく夏を乗り切られたことと存じます。

さて、恒例の秋の交流会を下記の要領で実施します。今回は度会郡小俣町の大仏山公園にハイキングです。日頃の運動不足を解消し森林浴と甘い和菓子も食べようという少々欲張りな企画になっています。

多数の参加をいただいで会員相互の親睦と情報交換をいたしましょう。

◎日 時 平成 15 年 11 月 2 日（日曜日） 雨天中止

◎行き先 三重県営大仏山公園（小俣町～玉城町）

◎行程および内容

10:10 近鉄明野駅集合→大仏山公園まで徒歩 3 キロ

到着後散策昼食

12:00 交流と情報交換会

13:00 お花畑見学とおにぎりせんべいの「マスヤ」で休憩

14:00 帰路（明野駅まで徒歩）

15:00 解散

◎参加費などについて

参加費は無料ただし近鉄明野駅までの往復交通費と「マスヤ」での飲食費は自己負担とします。お弁当は持参のこと。

ガイドヘルパーをご自分で手配できない方は早めに申し出て下さい。

明野駅までの電車時刻などについては、参加申込者に連絡します。

### ◎申し込みについて

10月25日までに地区担当役員または支部長に電話・メールして下さい。連絡担当の地区割りについてはおおむね下記のようにしています。

県北部の女性会員 小川 裕子

0593-82-0020 o-hiroko@mecha.ne.jp

県北部の男性会員 佐藤 好幸

0594-31-4041 yoshiyuki-satou@mpd.biglobe.ne.jp

津・亀山地区 岸田 一則

059-225-2756 k-kisida@ztv.ne.jp

久居一志・伊賀地区 内田 順朗

059-262-4465 robin103@ztv.ne.jp

松阪・飯南地区・紀勢地区 河原 洋紀

0598-58-2664 hk2664@aqua.ocn.ne.jp

伊勢・度会・多気地区 木村 靖子

0596-52-0811 yasuko-k@triton.ocn.ne.jp

志摩・鳥羽地区 小河 正次

0599-43-2523 sanryoin@poplar.ocn.ne.jp

### (参考) 県営大仏山公園について

明和町、小俣町、玉城町にまたがる県営大仏山公園。野球場をはじめテニスコート、芝生広場、児童遊具の充実したちびっこ広場などがある。

問い合わせ先 同公園管理センター(TEL0596-23-6565)

—◇編集後記◇—

秋の交流会のご案内を最後に載せましたが、たくさんの参加者があることを願っています。

1. 来年のカレンダー「白黒反転」を三重支部では10部注文しました。今のところ1名の申し込みがあります。必要な方は支部長まで連絡をください。
2. 便利生活工房2（大活字発行）を10冊寄付していただきました。CD付きです、先着順で、お申し込みされた方に、無料でお送りさせていただきます。申し込みは支部長まで
3. 17年度には、三重県に難病支援センターができる予定です。このセンターにどのような機能があったらいいと考えて見える方は、支部長までご連絡ください。県に要望させていただきます。
4. メールをしてみえる方で、まだ支部長まで連絡をしていただいていない方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀

〒515-0847

松阪市岩内町614

TEL/FAX 0598-58-2664

E-Mail hk2664@aquan.ocn.ne.jp

定価200円